

2018年5月27日（日）

主 題：「変わらないキリスト」

一過去・現在・未来一

テキスト：ヘブル人への手紙13章7、8節

はじめに

- ・私たち人間は、誰かの影響を受けて育っていきます。
 私たちが最も多くの時間を費やす所、それは一般的に言って家庭でしょう。ですから、家庭の影響は非常に大きいと言わなければなりません。
- ・特に親からの影響は極めて大きいので、良きにつけ悪きにつけ、親は子どもに影響を与えています。小さい子どもが親の仕草や、言葉をそっくりそのまま行う姿を見ると、驚きを隠せません。本当に怖いほどです。世間では、子どもを見れば、家庭が分かると言われますね。
- ・皆さん。酒に入り浸りの父親と、そのような父親をののしってばかりいる母親の家庭から、良い子が生まれることはほとんどありません。しかし、絶対にないかと言え、たまにあります。そういう子どもは、親以外の誰かから良い影響を受けています。親は、反面教師としての役割を果たしていることがあります。
- ・その良い影響を与えた人は、親戚のだれかであったり、近所のおじさん、おばさんであったり、あるいは学校の先生であったりするかも知れません。あるいは、本やテレビに登場する人物であるかも知れません。つまり、マイナスとしか思えない環境の中にあっても、そのどこかに良い影響を与えた人がいるのです。
- ・私の生涯を振り返ってみると、私は14歳の時にイエス・キリストを救い主と信じバプテスマを受けました。それ以来、現在に至るまで、約56年間クリスチャン生活を送ってきました。それは私の両親はクリスチャンで、両親の影響があったことは確かでしょう。
- ・しかし、信仰を受け入れたのは「クリスチャン・バイブル・キャンプ」でした。当時、私にとってバイブル・キャンプは大変新鮮なものでした。皆で楽しくスポーツをし、賛美歌を歌い、キャンプファイアーをし、聖書のみ言葉を聞き、私はイエス・キリストを信じ受け入れました。
- ・ところが、私が当時属していた教会は集会と呼んでいました。教会とは呼ばない人々で、それが聖書的である信じていました。確かに、兄弟姉妹は聖書に忠実で非常に固い信仰を持っていました。ある先輩のクリスチャンは、「私たちの群れは、エルサレム直系の教会である。」と言っていました。私もそう信じていました。礼拝では讃美するための楽器は使用しませんでした。女性は礼拝、集会中は一切口を開きません。会堂には中にも外にも、十字架はかけられませんでした。椅子は男女別々に座るのが普通でした。そういう集会では牧師もいませんでした。もちろん女性が講壇から、説教や奨励するところは考えられないことでした。
- ・ところが、そのような私が神の不思議なお導きで、ドイツの大学へ留学することになりました。それは今から約48年前のことで、日本経済は高度成長期を迎えていた時代でした。そして、私はドイツでも教会に行き始めました。

- ・私は日本で自分が生まれ育った群れと、ドイツの教会はあまりにも違いが大きく、大きなショックを受けました。それまでは、律法的に「何々してはいけない、何々すべきである」という教えであったからでした。ところが、ドイツの私が通った教会は、律法的ではなく、自由であったからです。はじめはドイツ語が分からず、外面の違いしか分りませんでした。
- ・しかし、数年経過して言葉が次第に理解できるようになり、会話もできるようになりました。そして青年会や先輩クリスチャンと、信仰の交わりを持てるようになりました。そこで気づいた点は、自分たち以外の所にも、素晴らしいクリスチャンが多数いることでした。それは眼からうろこが落ちるようでした。私にとって、霊の眼が開かれた時でした。
- ・私はドイツで出会ったクリスチャンたちによって、大きな影響を受けました。それまでは、狭い視野しか見ていなかった自分に恥ずかしさを覚えました。その後私は、神から召命を受け、献身し、群れや宗派を超えた働きである超教派伝道をするよう導かれたのでした。そして、宗派を超えた方々が集まる「デュッセルドルフ日本語キリスト教会」の開拓伝道を始めることとなりました。不思議です。実に不思議であります。
- ・このように私に影響を与えた人々は、ドイツのクリスチャンでした。そしてさらに「デュッセルドルフ日本語キリスト教会」に集った素晴らしいクリスチャン・ビジネスマンたち、さらに私が学んだドイツの聖書学校 (Wiedenest Bibel Schule)の恩師と仲間の学生たちでした。
- ・私はこのように信仰の影響を受けて、現在があります。そして今は「北浜チャーチ」牧師として、講壇に立ちお仕えしているのです。本当に感謝です。幸いなことは、私に影響を与えてくれた信仰の友と、今も親交を深めていることです。
- ・ところで、著者は13章7節で次のように述べています。
13:7 神のみことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、思い出しなさい。彼らの生活の結末をよく見て、その信仰にならいなさい。
 私たちは、誰かの影響を受けて育っていきます。皆さんは、いかがでしょうか？
 著者は「**神のみことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、思い出しなさい。**」と命じています。
- ・そこで私たちは今日、次の2点を考えてみたいと思います。

大切なポイント

1 指導者たちの信仰を思い出しなさい

13:7 神のみことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、思い出しなさい。彼らの生活の結末をよく見て、その信仰にならいなさい。

1) みことばを教える指導者

- ・ここで先ず教えられることは、教会における指導者というのは、神のみ言葉を教える者であることです。年老いた使徒パウロは、愛弟子テモテに次のように言いました。

2 テモテ 2章

2:15 あなたは熟練した者、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神にささげるよう、努め励みなさい。

- ・聖書を正しく理解する、学ぶことは非常に重要です。聖書を正しく理解していないと、正しく教えることはできません。もし仮に、正しく教えられないならば、自分よがりの理解となり、都合の良い聖書解釈となりかねません。ですから、これは重要なことです。
- ・イエスは、神のみ言葉の上に信仰生活を建て上げる人と、そうでない人について、次のような「たとえ話し」で教えられました。

マタイ7の福音書7章

7:24 だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行なう者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができます。

7:25 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それでも倒れませんでした。岩の上に建てられていたからです。

7:26 また、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行なわない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができます。

7:27 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもそれはひどい倒れ方でした。」

- ・この「たとえ話し」から学ぶことは、神のみ言葉の上に信仰生活を築くことが大切なことであることです。ですから、指導者が神の言葉を正しく教えることは極めて重要です。一方、み言葉を聞く側からいうならば、耳障りのいい話、楽しい話、面白い話に傾く傾向がないわけではありません。しかし、本当に神を愛し、神の言葉に耳を傾けている人であれば、どれが神の言葉か分かるはずです。
- ・私たちは日々のデイポーションで聖書を読み、それを自分の生活に適用している人は、指導者の言葉が神の言葉である聖書と一致しているかどうかは、すぐに分かるのです。

2) 指導者たちを思い出しなさい

- ・著者はこの13章で、指導者（ドイツ語でVorstehrer）と言う単語を3回用いています。

① 13:7 神のみことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、思い出しなさい。

当時の教会の指導者たちは、みな男性でした。そして神のみ言葉を、さまざまな状況下で、識別力をもって説き明かした指導者たちでした。ヘブル5章に次のように書かれています。

5:14 しかし、堅い食物はおとなの物であって、経験によって良い物と悪い物とを見分ける感覚を訓練された人たちの物です。

つまり教会生活の具体的な課題について、主から識別力をいただき導いた指導者（Vorstehrer）たちのことです。その人々は長老、監督と呼ばれた人たちでした。

② 13:17 あなたがたの指導者たちの言うことを聞き、また服従しなさい

指導者（監督、長老）たちは、文字通り、神の前に生きるお手本（模範者、ドイツ語でVorbilder）のような人たちでした。1テモテ4章に次のように書かれています。

4:12 年が若いからといって、だれにも軽く見られないようにしなさい。かえって、ことばにも、態度にも、愛にも、信仰にも、純潔にも信者の模範になりなさい。

また1ペテロ5章に次のように書かれています。

5:3 あなたがたは、その割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となりなさい。

- ・つまり聖徒たちは、そのような指導者の語ることを聞き、服従するよう求められました。ヘブル人への手紙11章では、「信仰によって」と言って始まった信仰の父祖たちが書かれています。また初代教会の指導者の中には、父祖たちのように、「信仰によって」歩んだ立派な指導者たちがいました。そして、その人たちへ著者は、よろしく伝えてほしいと言いました。それが次のポイントです。

③ 13:24 すべてのあなたがたの指導者たち、また、すべての聖徒たちによろしく言ってください。

ここに、指導者と聖徒との兄弟姉妹の関係を学ぶことができます。よろしくと、挨拶を交わせる関係を、著者は教えています。ですから、指導者が鍵を握ります。指導者によって教えられ、指導者から影響を受け、育っていくからです。著者はもう一つ大切なことを勧めています。

3) 指導者たちの信仰にならいなさい

- ・著者は、「**彼らの生活の結末をよく見て、その信仰にならいなさい。**」(13:7)と命じました。それは単に、彼が指導者として歩んでいる姿を見るだけでなく、生活の結末をよく見なさいと言いました。
- ・皆さん。神の言葉を正しく教える指導者は、重要な存在です。指導者にならうことに関して、パウロは次のように語りました。**1コリント人への手紙 4:16** **ですから、私はあなたがたに勧めます。どうか、私にならう者となってください。**私たちはパウロのように、「**どうか、私にならう者となってください。**」と言えないものです。むしろ逆で、「**どうか、私を見ならわないでください。**」と言います。しかしパウロは次のように言いました。**11:1** **私がキリストを見ならっているように、あなたがたも私を見ならってください。**
- ・パウロは、「**あなたがたも私を見ならってください。**」と言いました。その意味は、パウロは完全で人々の模範者で落ち度が何もなかった、という意味ではないと思います。彼も失敗しましたし、喧嘩や争いもしました。そうではなく、パウロはそういう人間的弱さを持ちつつも、そのまま主の前に正直に出た指導者であったと思います。彼は「**私がキリストを見ならっているように**」と言いました。そこに、指導者(Vorsteher)の姿を見ることができます。
- ・私たちが、み言葉が命じているように、神の言葉に命をかけ、それを教えるだけでなく、それに生きている指導者に見ならうことが大切です。それが、聖書が教える指導者であるからです。しかし、人間は所詮不完全な存在にすぎません。完全な指導者はお一人です。⇒ イエス・キリスト

2 真の指導者イエス・キリスト

13:8 イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。

1) 創造神の本性

- ・この世の中は絶えず変化しています。それは常に進歩しているかのように見えますが、実はそうではありません。哲学も科学も神学も、時代と共に変わっていきます。この世の価値観は変わるのです。
- ・私たち人間はどんなに長生きしても、所詮死ななければなりません。どんな立派な指導者であっても、死ななければなりません。ですから信仰の継承も必要ですし、後継の指導者も必要になってきます。けれども、「**イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。**」このお方が、真の指導者であることはなんと幸いではありませんか。
- ・旧約聖書、出エジプト記を開きますと、イスラエルの指導者モーセが神に次のように言った箇所があります。**出エジプト記 3:13** **モーセは神に申し上げた。「今、私はイスラエル人のところに行きます。私が彼らに『あなたがたの父祖の神が、私をあなたがたのもとに遣わされました。』と言**

えば、彼らは、『その名は何ですか。』と私に聞くでしょう。私は、何と答えたらいいのでしょうか。」

3:14 神はモーセに仰せられた。「わたしは、『わたしはある。』という者である。」
また仰せられた。「あなたはイスラエル人にこう告げなければならない。『わたしはあるという方が、私をあなたがたのところに遣わされた。』と。」

- ヘブル語には英語やドイツ語のように、自制がありません。和訳では、神は「わたしはある。」と訳（現在形）されていますが、過去形、あるいは未来形に訳することも可能です。{ちなみに、独 Eriberfeld 訳は現在形：“ich bin, der ich bin”、独ルター訳聖書は未来形：“ich werde sein, der ich sein werde” 過去形に訳されている聖書もあると聞いたことがあります。3種の異なる自制です。}

- つまり、神はどんなお方ですか、という問いに対して、神は自制を超えて存在されるお方です、と答えることができるのです。過去におられ、現在もおられ、そして未来もおられるお方です。何という幸いではありませんか。

13:8 イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。

2) 大祭司イエス・キリスト

- 人は生涯、最初の信仰をまっとうすることが出来ないかも知れません。しかし、私たちの大祭司であるイエス・キリストは、決して変わることがないお方です。永遠に生きておられるイエス・キリストは、私たちを助け、慰め、励まし、力づけてくださいます。パウロは次のように言いました。エペソ人への手紙

3:17 こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでいてくださいますように。また、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、

3:18 すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、

3:19 人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができますように。こうして、神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされますように。

- 私たちはすでに学びで学びましたように、イエス・キリストはメルキゼデクに等しい大祭司です。メルキゼデクはどんな人であったのでしょうか。

ヘブル人への手紙

7:1 このメルキゼデクは、サレムの王で、すぐれて高い神の祭司でしたが、アブラハムが王たちを打ち破って帰るのを迎えて祝福しました。

7:2 またアブラハムは彼に、すべての戦利品の十分の一を分けました。まず彼は、その名を訳すと義の王であり、次に、サレムの王、すなわち平和の王です。

7:3 父もなく、母もなく、系図もなく、その生涯の初めもなく、いのちの終わりもなく、神の子に似た者とされ、いつまでも祭司としてとどまっているのです。

- 著者はイエス・キリストについて次のように述べています。

7:17 この方については、こうあかしされています。「あなたは、とこしえに、メルキゼデクの位に等しい祭司である。」

7:24 しかし、キリストは永遠に存在されるのであって、変わることはない祭司の務めを持っておられます。

7:25 したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことができになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。

- ・皆さん。このお方が、私たちのすぐそばにいてくださるならば、もう恐れる必要は何もありません。だれがいなくても、イエス・キリストがいてくだされば、千人力です。私たちはこのお方の助けによって、毎日の信仰生活を力強く歩んでいこうではありませんか。
- ・ですからイエス・キリストについて、もっとよく知ろうではありませんか。イエス・キリストがよく分かれば、私たちの信仰生活は力に溢れたものになるはずです。

ま と め

主 題：「変わらないキリスト」
一過去・現在・未来一

- ・私たちは今日、大切なことを学びました。
13:8 イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。
 - ・私たちは具体的にどのように歩むべきでしょうか。
13:7 神のみことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、思い出さない。
彼らの生活の結末をよく見て、その信仰にならなさい。
1. みことばを正しく教える指導者
 2. 指導者たちを思い出さない
 3. 指導者たちの信仰にならなさい

* God bless you!